

令和5年4月1日

「続発性気胸の治療についての検討」研究対象者の方へ
(研究に関する情報)

北海道中央労災病院では、以下の研究を実施しております。

続発性気胸は、じん肺の合併症の中で肺がんと同様に4割を占め頻度が多い合併症です。基礎疾患のない方に発症する自然気胸と異なり予後が不良な症例も多いといわれています。気胸の治療の改善は、じん肺患者の予後改善に直結する可能性があります。

トパーズは、従来の持続吸引器と異なり胸腔内圧が $-15\text{cmH}_2\text{O}$ 以上かつ設定圧との差が $-5\text{cmH}_2\text{O}$ 以上の過陰圧の状態が10秒以上続くと過陰圧を自動解除する仕組みをもつ吸引機です。さらに、気胸の瘻孔から漏れ出てくる空気量をデジタル表示する器械です。これらの特徴は、胸部に開けた管の挿入口付近に存在する細菌の吸引を防ぎ感染症予防につながります。さらに、漏れ出てくる量が多い場合には外科で瘻孔を塞ぐ手術が必要になるため、デジタル表示された空気量で内科的に治療する限界を早めに察知することができます。これらの機能は、気胸を合併した患者さんの予後改善に結びつく可能性があります。

2015年8月に当院はトパーズを導入しています。導入前後で気胸患者さんの予後が改善したかどうかを検討することが目的です。

【研究開発領域】	労災保険給付に係る決定等の迅速・適正化
【研究開発テーマ】	じん肺
【研究課題名】	続発性気胸の治療についての検討
【研究機関名・長の氏名】	北海道中央労災病院 院長 大塚 義紀
【研究責任者】	北海道中央労災病院 院長 大塚 義紀
【研究期間】	令和5年4月1日～令和8年3月31日
【研究の方法】	

1 対象

北海道中央労災病院にてじん肺の続発性気胸として治療を受けた患者
(選択基準)

① 本研究への参加について拒否しないもの
(除外基準) 以下のうち1つでも該当するものは、対象外として除外する。

- ① じん肺以外の重篤な呼吸器疾患を有するもの
- ② その他、研究責任者が研究対象者として不適当と判断したもの

2 利用する情報の項目・取得方法

年齢、入院期間、膿胸や肺炎などの合併症の有無、受けた治療法、手術療法の有無、予後など

3 共同研究機関

なし

4 情報の管理責任者

北海道中央労災病院 院長 大塚 義紀

- 5 本研究では対象となる患者さん又はその代理人の求めに応じて、研究対象となる患者さんの情報の利用を停止することができます。希望される場合は以下にご連絡ください。

6 個人情報の管理について

研究対象者となった方に情報を公開し、研究参加の拒否、撤回ができるようにします。研究参加の拒否、同意撤回をされた方に不利益は発生しません。また、個人情報漏洩を防ぐため、本研究では個人を特定できる情報を削除し、データの数字化、データファイルの暗号化処理などの厳格な対策をとり、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。さらに、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

7 医学・看護上の貢献

本研究により対象者となった方が直接受けることができる利益はございませんが、本研究を行うことで、じん肺に合併した気胸の治療法として優れた治療法の開発に結びつく可能性があります。この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、ほかの研究対象者となった方の個人情報や研究に支障となる事項以外はお知らせすることができます。研究に利用する個人情報に関しては、お名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際にも研究対象となった方を特定できる個人情報は存在しません。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

〔連絡先〕

〒068-0004 北海道岩見沢市4条東16丁目5番地

北海道中央労災病院 院長 大塚 義紀

TEL : 0126-22-1300